

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドドド立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月2日 NO.38 (338)

モンタ博士「いよいよ2学期^{がっき}だけど、二人とも夏^{なつ}休^{やす}みの宿^{しゅく}題^{だい}は、きちんと出したかな。」

花ちゃん「もちろんですよ。わたしは、1学期^{がっき}の復^ふ習^{しゅう}もばっちりでした。それに、たくさん^{ほん}の本^よを読^よんだし、漢^{かん}字^じや計^{けい}算^{さん}もたくさんやったわ。」

モンタ博士「それはすばらしい。ところで、オー君は？」

オー君「もちろん・・・といたいけど、あとちょっと残^{のこ}っているんだ。今^{いま}、大^{おお}急^{いそ}ぎでや^やってるから、できたら先生^{せんせい}に出^だします。」

モンタ博士「しっかりとがんばってくれたまえ。ところで、自由^{じゆう}研^{けん}究^{きゅう}はどうしたのかな。」

オー君「もちろんやりました。ぼくは、すっごい研^{けん}究^{きゅう}をしたんだ。」

花ちゃん「わたしもです。モンタ博士。今^{こん}度^ど、教^{きょう}室^{しつ}に見^みに^き来^きてください。」

モンタ博士「それは楽^{たの}しみだね。必^{かな}ず教^{きょう}室^{しつ}に行^いくからね。」

オー君「ところで、モンタ博士も夏^{なつ}休^{やす}みの自由^{じゆう}研^{けん}究^{きゅう}をやったのですか。」

花ちゃん「何^{なに}をやったのですか。わたしたちに教^{おし}えてください。」

モンタ博士「そうだね。モンタ博士は、今^{ことし}年^{ねん}の夏^{なつ}はあまりあちこちには行^いけな^なかったけど、おうち^{うち}の近^{ちか}くの山^{やま}を歩^{ある}いていて、大^{だい}発^{はつ}見^{けん}したんだ。下^{した}の写^{しゃ}真^{しん}を^み見てよ。」



オー君 「あれあれ？丸いものが7つもあるよ。なんだろう。」

花ちゃん 「ネズミさんがいますね。何か関係あるのかな。」

オー君 「ネズミといっても、ぐりとぐらではないみたいだよ。」

花ちゃん 「ミッキーマウスやミニーマウスでもなさそうですね。」

チュウすけ「えっへん！おれ様は、ねずみのチュウすけだ。」

花ちゃん 「チュウすけ？聞いたことないわ。」

チュウすけ「おれ様は、アカネズミのチュウすけ様だ。雑木林や山などにいるネズミさ。」

オー君 「ところで、チュウすけさん！丸いものはなんですか。」

チュウすけ「よく聞いてくれたね。この丸いものは、クルミだよ。穴のところをよく見ると、おれ様がかじったあとに見えるぞ。クルミはかたいけど、おれ様のじょうぶな歯にはかなわないのさ。歯でかじってから、中のおいしいところをいただくわけさ。クルミはみんなも知ってるだろう。うまいんだぞ。」

オー君 「そうだね。くるみパンって、とってもおいしいよね。」

花ちゃん 「このクルミの中をぜんぶ食べたあとということですね。」

チュウすけ「そうなんだ。仲間といっしょに食べて、食べカスをおいといたら、モンタ博士とかいう人が持って行ってしまったというわけなんだ。」

モンタ博士「勝手にもらってごめんね。ネズミの生活の様子を、国立七小の子どもたちに知らせたくて、ちょっといただいたということなんだ。」

チュウすけ「まあ、そういうことならいいけどよ。まあ、2学期も始まったことだし、しっかりと勉強するんだよ。ところで、右の写真はなんだ。これはおいらが開けた穴ではないぞ。」

モンタ博士「これはむずかしいね。何だか分かるかな。」

キツツキ 「この穴は、わたしが開けたの。口ばしでついて、中の幼虫をいただいたというわけよ。

→ の穴をよーく見てください。」

